

## 学校規模別にみた児童の学校への安心感

○高橋陸斗 (北海道大学)

加藤弘通 (北海道大学)

キーワード：学校環境，学校適応感，学校規模

### 問題と目的

文部科学省(2017)は公立小学校の適正規模・適正配置について、学校教育法施行規則第 41 条の記載より「12 学級以上 18 学級以下を標準」とするとともに、標準が弾力的なものであることに留意しつつ、12 学級を下回る場合の教育上の課題を考える必要性を示している。

本研究では、学校に対する児童の安心感にどのような因子が関係しているのかを学校規模別に分析することから、学校規模の違いが安心感に与える効果とそれに関連する要因の変化について明らかにすることを目的とする。

### 方 法

札幌市内の公立小学校 17 校 102 学級の 4~6 年生 2,869 名に対し、2019 年 8 月から 12 月に実施した。各学級担任を通して質問紙を配布した。

分析に使用した質問項目は「学校は安心感をもっているか」の他に、①学校生活について(2 項目)、②友達との関係(2 項目)、③教師との関係(2 項目)であった。すべての質問において「まったくあてはまらない(1 点)~非常にあてはまる(5 点)」までの 5 件法で回答を求めた。

なお、教育委員会および校長会を通して依頼する際に、不適切な項目等がないか慎重に協議し、要請に応じて表現等を修正した。また実施に際しては、教師から子どもへ『調査への参加は自由であり、また応えたくない項目には応えなくてよい』ことを徹底して伝えてもらえるように依頼した。

### 結果と考察

2019 年度の各学校における全学年の学級数をもとにグループ分けを行なった。12~18 学級を「標準規模校」としたうえで、11 学級以下の学校を「小規模校」、19 学級以上の学校を「大規模校」とした。その結果、「小規模校」が 4 校、「標準規模校」が 10 校、「大規模校」が 3 校となった。

まず、各グループにおいて学校への安心感に差があるかについて平均点の比較を行なったところ、標準規模校>大規模校>小規模校の順に安心感の得点が高かった(Table 1)。また、3 群について一元配置分散分析を行なったところ、その間に有意差は見られなかった。

次に学校への安心感にどのような要因が関連しているのかを検討するために、①~③の 6 項目について相関分析を行なった(Table 2)。

その結果、全学校規模において「安心感」との相関が大きかった上位 2 つはいずれも、授業の楽しさ、先生との楽しさであり、共通していた。

3 番目以降については、小規模校では「友達」>「行事の楽しさ」>「先生は話を聞く」という順に項目が続いた一方で、標準規模校・大規模校では「行事の楽しさ」>「先生は話を聞く」>「友達」と、異なる傾向が見られた。

Table 1 学校規模別の「安心感」平均点

規模	平均点	標準偏差	人数
小規模校	3.53	1.254	196
標準規模校	3.64	1.219	1777
大規模校	3.63	1.226	877
全体	3.63	1.223	2850

Table 2 「安心感」と因子の相関

項目	小規模	標準	大規模
学校の授業は楽しい	.550**	.465**	.537**
学校の行事は楽しい	.445**	.420**	.467**
友達が沢山いる	.455**	.375**	.352**
友達といると楽しい	.468**	.364**	.414**
先生といると楽しい	.552**	.442**	.510**
先生は話を聞く	.413**	.418**	.458**

\*\*<.001

本研究では、学校規模によって安心感に違いがあることは示されなかった。更に、安心感に関連する要因については、小規模校か否かによって安心感に影響する因子が異なることが分かった。

文部科学省では特に小規模校と大規模校(ここでは 25 学級以上を指している)に関して、授業・行事・生活指導の面で課題が発生するとしている。この調査では児童がもつ学校に対する安心感を中心に検討した結果、小規模校では友達との関係が深まることで安心感が高まる一方で、行事や教師の深い関わりが安心感に与える影響は少なくなっている。標準規模校と大規模校に関しては大きな差が見られなかったため、今後は学校規模の影響を、小規模校と標準規模校以上の 2 つに分けて検討する妥当性を得られた。

児童にとって安心できる環境を整備するためには、適正な学校規模について詳細に検討を進める必要があることを改めて示唆した。